NEC／Swisscom

欧州のホテルチェーンにクラウドによるコミュニケーションサービスを提供

NECと、スイスの大手通信事業者であるSwisscom社は、オランダを拠点とするグローバルホテルチェーン「citizenM Hotel Group」に、クラウドによるコミュニケーションサービスを提供した。

本サービスは、NECのユニファイドコミュニケーションシステム「UNIVERGE Sphericall」と、Swisscomのグループ会社であるSwisscom Hospitality Serviceが提供するプロパティマネジメントシステム（以下、PMS）と連携し、ホテル向けのフルマネージドサービスとして提供するもの。本サービスでは、NECの欧州における企業向けネットワーク事業の拠点であるNEC Unified Solutionsが、自社データセンターにUNIVERGE Sphericallを設置・運用し、IP電話の機能をSaaSとして提供する。Swisscom Hospitality Serviceは、これらの機能と同社の提供するPMSや通話課金システムを連動させ、citizenM Hotel Groupが英国グラスゴーに新設したホテル向けにクラウドサービスとして提供している。併せて、データセンターからホテルまでの通信回線も提供している。

本サービスの主な特長は以下のとおり。

①ホテルはIP電話機を導入するだけで、館内の音声ネットワークを整備可能。これにより、IT投資や機器設置のスペース、および運用コストの削減に貢献。

②標準的なWEBインターフェースを提供しており、PMSや課金システム等、他のアプリケーションと容易に連携することが可能。

citizenM Hotel Groupは、今回、仮想サーバ環境で稼動するクラウドサービスを導入したことで、システム運用コストを大幅に削減したほか、今後ホテル数を拡張する際にも、同サービスを水平展開することにより追加のシステム構築費用を抑えることが可能となる。

NEC
03-3798-8714

富士通

韓国Wonkwang大学病院が電子カルテシステムの本格運用を開始

韓国のWonkwang大学医科大学病院は、富士通が韓国で開発・販売している電子カルテシステム「FK-EMR」の本格運用を開始した。

1980年に設立されたWonkwang大学病院は、病床約800床、医師約300名が在籍する大規模病院である。世界に通じる病院へと発展するために、1998年にオーダリングシステム、2002年に医用画像管理システムを導入し、診療情報の電子化を図ってきた。このたび病院内のカルテやオーダーなどの医療情報の統一、さらなる業務効率、患者利便性・安全性向上のため、日本の電子カルテ市場でトップベンダーであり、また韓国の大規模病院向けに導入実績のある富士通の電子カルテシステム「FK-EMR」を選定した。

本システムは、既存のオーダリングシステムに、従来紙カルテで記録していた個人情報、病歴、診療、入退院の記録、各種検査結果や画像データなど、診療中に発生する医療情報を全て追加し、電子カルテで一元管理ができる。これにより、看護師や検査技師など必要な部門において、リアルタイムに電子カルテの閲覧や記入ができ、情報共有がスムーズになるなど利便性が向上する。また、手書き文字による誤認識が防止できることによる安全性の向上や、紙カルテの保管・管理にかかっていたコスト削減も可能となる。

Wonkwang大学病院は、本システム導入後、診療時間の大幅な短縮が可能となり、一日に診療できる外来患者を約300人に増やすなど、患者満足度の向上も実現している。今後も患者の立場にたった診療という病院方針のもと、さらなる最先端技術を駆使して診療環境の改善、病院の競争力を高め、また医療行為の品質向上を目指し、他の病院との差別化を図ったサービスを提供する予定である。

富士通コンタクトライン
電話：0120-933-200